

第6支会

1 地域の概況

「悠久の昔、この小曾木の地に人が住みつき、生活の場を開き、苦難に堪えて次第に子孫を繁栄させ、現代に至った。どれほどの年月を経たのであろうか。定かではない。しかしながら岩蔵台地の先住民族の住居遺跡をみても、およそ五千年前の縄文中期に、すでにこの土地に人間が生活を営んでいたことは明らかである。」郷土第6支会地域の発祥を『小曾木近代誌』はこう記している。

荒川の上流、黒沢川のはざまに、第6支会地域は細長く存在する。山あいの谷田、平地の田畑は、その面影を失いつつあるものの、自然と人とが調和して生活できた、のどかな、かつての郷土を想像することもできる。

面積は、14.97平方キロメートル。人口4,443人（平22・4・1）、世帯数2,247世帯である。青梅市と合併した昭和30年当時の人口3,743人、世帯数659世帯に比べれば、かなりの増加である。その後開設された市営住宅、老人ホーム等の影響も大きい。

地域の産業であるが、戦後まもない頃（昭25）、農家数は428戸、専業農家57戸を数え、また、工業は織物業が黒沢地区を中心に、その隆盛期であった昭和30年には60工場が稼働していたといわれる。しかし、現在、人は田畑から離れ、織物は地場産業ではなくなり、住民の多くは勤労者になり、地域は住宅地域化したものである。

こうした時代の移り変わりの中で、戦時中、光学兵器を製作する富岡工学（創設者は富岡1丁目出身者）が疎開し、その後レンズ工場として栄え、現在は大手企業のグループ関連会社として、地域の雇用創出の面においても寄与している。

また、小曾木5丁目には江戸時代末から湯治場として知られた岩蔵温泉が、市内有数の観光地として存在している。

2 地域の歴史

通称「うえんてい」という場所がある。黒沢川の南、岩蔵温泉の上手に突出した台地である。昭和39年、縄文中期の遺跡が発見されたのが、この場所である。小曾木の地名を記録した最古のものは、根ヶ布の天寧寺の銅鐘である。「武州仙杣小曾木郷」と鐘銘にある。青梅地方一帯を支配していた三田弾正が大永元年（1521年）に寄進したものであり、この時代すでに「小曾木」は実在していた。

笹仁田峠を下りきると小布市（小曾木1丁目）の三岐路に「左上成木、右ちちぶ、ねのごんげん道」と刻む道標が残っている。いわゆる秩父街道である。江戸時代、子の権現、三峰権現へ往還する人々も多かったであろう。黒沢の青梅坂は「縞の道」としてイメージを結ぶ。嘉永年間に黒沢の人が「ノゲ縞」を織ったという記録がある。江戸時代、「青梅縞」として江戸で有名となった織物は、峠の北の村落での賃織労働が集積されたものであったろう。織られた縞は、青梅坂を越え、青梅の宿に運ばれた。

幕府軍彰義隊が、上野で官軍に敗れ、その残党が笹仁田を越え豊岡方面に向い、追手の官軍も小曾木を通り、やがて飯能戦争となる。こうして小曾木の里に明治の時代がおとずれたことは、木村東一郎氏の著述に詳しい。

変転きわまりない時代の動きの中で、明治5年に至り、戸長制度が実施され、小曾木の地区は神奈川県に属し、南小曾木村、富岡村、黒沢村と成木地区との連合村が誕生し、村政がはじまっているが、現在の地域で小曾木村に統一されるのは、明治22年を待たなければならない。

昭和57年に作られた『小曾木いろはかるた』に「寺からはじまった学校」というものがある。近代学校制度は、小曾木の地においても寺からはじまっている。富岡村は常秀院、南小曾木村は高德寺、黒沢村は聞修院であった。戦後、新制中学の発足も荒田の福昌寺であったのも符合する。これらの学校が現在の市立七小の地に統合されたのは、大正15年である。学校は白亜の校舎として住民の誇りとなり、当時、西多摩

郡内でも群を抜いていたという。しかし、もうこの校舎も、写真でしか見られない。

小曾木村は、昭和30年に青梅市と合併した。以来、生活環境と都市施設の整備が進められてきた。昭和32年、小曾木地区に自動電話が開設され、南小曾木診療所が完成している。昭和35年には旧出張所が建てられている。翌年36年に長淵、大門出張所が廃止されているが、小曾木出張所は現在でも継続している。丁目による町字が発足したのは昭和43年。昭和44年には、富岡に市営住宅が建設されている。そして、昭和45年に、上水道の給水が始められた。

市北部地域の福祉の拠点としての小曾木保健福祉センターは平成6年度に開設された。永年の懸案であった下水道事業は平成20年度に着工され、24年度の供用開始を目指して工事が進められている。

教育施設の整備では、昭和49年に市立七小の改築、51年に市立六中が、現在地に新築されている。市民センターの完成は、昭和54年9月である。いずれも地域のほぼ中央に位置し、特に市民センターは、地域の住民と市民組織の活動の場として利用されている。

3 支会（自治会）活動

第6支会は、平成21年度まで15の自治会により組織されてきた。世帯数は1,051世帯（平成22年4月、自治会加入世帯）である。残念なことであるが平成22年度から1自治会減少し、14自治会となった。

支会は、各自治会の活動と合せ地域住民の福祉の向上を目的とする諸事業を進めるとともに、支会が中心となって組織される自主防災組織、青少年対策地区委員会、忠霊塔奉賛会などの事業の推進に当り、中心的な役割を担っているが、地域住民による諸事業は、各種団体と密接な連携をもって実施されてきている。

次に、支会の主な活動内容を紹介する。

自治会相互の連絡協調を図り、各種事業の具体的な計画を協議するため、支会役員会議（自治会長会議）を月1回のペースで開催するほ

か、必要に応じ正副支会長会議、役員会議を開催している。

自治会役員相互の親睦を図るための事業としては、バーベキュー大会、新年会、ゴルフコンペを行っている。バーベキュー大会は、夏の1日、花木園内において開催し、自治会役員やご夫人など70名を超える参加者があり、人気のある事業の一つとして定着したものとなっている。

自治会の健全な育成を図るための事業としては、自治会役員の研修旅行を年1回行っている。

地区住民の健康づくりや体力づくりの推進事業としては市民運動会、ソフトボール大会、インディアカ大会、ビーチボール大会がある。中でも地域の住民の子供から老人までが集うのは、毎年10月、第七小学校で行う運動会である。参加者の「青梅市民歌」が終ると、第1コーナーの面する校舎の陰から、聖火のトーチを掲げた中学生のグループと市旗を持った小学生のグループが現われ、正面を通過して、きのこ形に作られた聖火台へ進む。聖火が点火されて、運動会は始まる。小学生、中学生の演技、自治会対抗の競技、そして、老人と子供と一緒に玉入れなど、住民の全世代が参加して秋の1日を過す。



小学生から大人まで参加する運動会「ふれあいリレー」

運動会をはじめとして住民の体力づくりは単位自治会の行事のほか、支会主催で行うのが春秋のソフトボールとインディアカ大会、ビーチボール大会である。

体育事業を中心的に進めるのは、体育委員会である。体育委員会は、各自治会で推薦された体育委員により、自治会の下部組織として作ら

れた、比較的若い世代による団体である。

そのほかの事業として特徴的なものが自治会長夫人の慰労事業である。これは夫人を対象とした日帰り旅行である。自治会長が生業をもつことから、日常の自治会長の仕事を代行する夫人の役割はきわめて大きい。夫人の協力がなければ自治会長は務まらないといわれる所以である。慰労事業は、そうした夫人の御苦勞をねぎらおうとするものである。

さらには、隣接支会との連携を深めるための事業として、第7支会および第11支会との交流を持ち、共通する地域での自治会運営について話し合う機会としている。

4 各種団体と事業

(1) 第6支会地域の安全をまもる会

社会情勢の変化に伴い、犯罪も多様化してきている中、第6支会内に居住する住民の防犯・防災・交通安全等に対する意識の普及、高揚を図るため、「第6支会地域の安全をまもる会」を平成17年度に設置し、地域全体でパトロール等を行い、自治会員相互の親睦と将来を担う子どもたちの健全育成を図り、犯罪のない住みよい地域づくりを目指している。



安心・安全のまちづくりのための「パトロール」

(2) 自主防災組織

自主防災組織は、昭和56年に結成された。毎年、春の火災予防週間と防災の日に、地区を4ブロックに分けた地域で、住民と消防団との合同訓練が年中行事となってきている。組織は、自治会を中心とし、婦人会、消防、交通安

全協会、農業協同組合、学校等、地域の団体、機関によって運営されている。

(3) 青少年対策地区委員会

代表的な事業として8月の黒沢川の清掃がある。もともと青少年社会参加事業として、昭和57年に始められた事業である。これを契機として青少年対策地区委員会の主要事業となって毎年実施されてきている。委員会は、支会長が委員長となり、自治会、PTA、学校などで組織化されている。この事業の主体となるのは、子供会を基盤とした小中学生である。事業の実施に当り、小中学生のリーダーにより計画づけがなされるよう委員会で準備する。

清掃作業を、大人と子供と一緒に実施するなかで、大人と子供の交流が図られ、お互いに相手から何かを学んでいくことであろう。毎年、子供達の参加率は80パーセントを超えている。

(4) 小曾木老壮大学

小曾木老壮大学は昭和42年に開校された市内で2番目に歴史のある老壮大学である。

「本学は、老壮者相互の親睦をはかり、保健と時代の推移に伴う研修を行うことを目的とする」という趣旨に賛同する人達が毎月1回の学習会に会員が集まっている。会員は70人を超える。

学習内容は、4月の開講式に始まり、運動・レクリエーション、歌唱、切り絵、冠句、講演会、研修旅行や地区文化祭への参加など3月の閉講式まで多様に展開している。

(5) 体育委員会

前述のとおり、支会の体育事業は体育委員会が中心的に進めている。

ソフトボール大会は春・秋の年2回開催している。すでに70回にも及ぶ大会であるが時代の変遷とともに参加チームが減少傾向にある。インディアカ大会は秋に、ビーチボール大会は冬に開催しているが、比較的新しいスポーツであり、それぞれ練習会も行っている。

もっとも大きな事業は10月に行う市民運動会であるが、支会の事業の中で取り上げたのでここでは省略する。

(6) 小曾木地区忠霊塔奉賛会

第6支会をはじめ防衛協会、民生委員など各

種団体で組織する小曾木地区忠霊塔奉賛会において、地区内の戦没者への感謝の気持を表し、遺族の繁栄と多幸を祈念して、毎年3月に小曾木地区戦没者追悼式を行っている。

(7) 小曾木地区文化祭実行委員会

小曾木市民センターを拠点に活動している文化団体や、農協、小中学校、保育園、社会福祉施設などにより実行委員会を組織し、毎年11月に2日間にわたり小曾木地区文化祭を開催している。

作品の発表会だけでなく、警視庁のPRコーナー、農産物、手打ちそば、わたあめ等の販売やトン汁の配布、中学校吹奏楽部の演奏会など数多くの催しもあり、2千人近い来場者がある大きなイベントである。

(8) 戦没者遺族会第6支部

年月の経過とともに遺族の数も年々減少している。靖国神社参拝、青梅市や小曾木地区戦没者追悼式に参加している。

(9) 高齢者クラブ

地域には四つの高齢者クラブがあり、それぞれのクラブにおいて、社会奉仕や健康増進活動を展開しているほか、連合事業としてゲートボール大会とグラウンドゴルフ大会を開催している。

(10) 交通安全協会第6支部

本部要請事業や支部管内の関係行事に出動し、安全・安心のまちづくりに貢献している。

(11) 消防団第6分団

第6分団は4部で編成され、団員82名、車両6台を有し、有事に備えている。また、春・秋に

は非常召集訓練を行い、春・夏の自主防災組織による防災訓練では中心的役割を果たしている。

(12) まとい会小曾木支部

消防団第6分団の育成強化、小曾地区自主防災組織連絡会の活動に対し積極的に協力している。



子どもたちも参加「防災訓練」